

校正記号表

●指示の色

校正刷や出力ゲラへの校正指示の記入は、赤色を使用します。ただし、補助的な指示や赤色のみの修正では煩雑になる場合には、赤色以外の色を使用してもかまいません。

●引出し線などの扱い

① 引出し線は、修正箇所近くの余白に引き出します（引出し線は、長く引き出さない）。

② 引出し線は、原則として校正が終わった方向に引き出します。

③ 引出し線は、同じ行にある修正箇所の前後にくる対象の文字や記号に掛けないようにします。

④ 引出し線は、別の引出し線と交差させないようにします。

⑤ 指示の文字・記号およびその他の指示は、対象の文字・記号の上には書かないようにします。

この校正記号表は JIS Z 8208（2007年1月改正）を基に記入例などの編集を加えました。

校正記号表→

（『編集デザイン入門』荒瀬光治著 2007.4 出版メディアパル刊より抜粋）

●表1 修正の指示および組版指定に用いる主記号

記号	記入例	修正結果
1.1 文字・記号の修正		
1.1.1 文字・記号を取り替える		
	循環と共生 一番の問題	循環と共生 一番の問題
【許容】		
1.1.2 直音を示す仮名を小書きの仮名に直す		
	ニツチ	ニッチ
【許容】		
1.1.3 小書きの仮名を直音を示す仮名に直す		
	かつて	かつて
【許容】		

記号	記入例	修正結果
1.1.4 文字・記号を削除し、その部分を詰める		
	環境に適應 定住した生活 環境に適應 定住した生活	環境適應 定住生活 環境適應 定住生活
【許容】		
1.1.5 文字・記号を削除し、その部分を空けておく		
	自然の管理 自然の管理	自然 管理 自然 管理
【許容】		
1.1.6 文字・記号を挿入する		
	育れて	育まれて
【許容】		

記号	記入例	修正結果
1.6 字間の調整		
1.6.1 空いている字間をベタ組にする		子孫たち 子孫たち 子孫たち
1.6.2 詰め組をベタ組にする		地球上に
1.6.3 字間の空き量を指示する		生存する 生存する 生存する
1.7 改行、改丁・改ページ・改段等及び送りの指示		
1.7.1 改行に変更する		先祖に与えてくれました。樹木はまた、光合成 樹木はまた、
1.7.2 改行を取り消し、行を続ける		薪を作り畑を作りました。それでも人口は増え でも人口は増え

記号	記入例	修正結果
1.7.3 指定の位置まで文字・行などを移動する		循環 全ての生物は互いに共生する 循環 全ての生物は互いに共生する 循環 全ての生物は互いに共生する
1.7.4 改丁・改ページ・改段を指示する		改丁、改ページ、改段
1.7.5 文字の送りを指示する		トル 子どもたちや孫として時を超えその子孫たちも 子どもや孫として時を超えその子孫たちも同じ 超孫 子どもたちや孫として時を超えその子孫たちも
1.7.6 行の送りを指示する		文字の挿入・削除による文字の送りは、一般には自動的に処理されるので、指示を省略してもよい。
1.8 その他の修正		
1.8.1 けい(野)線を指示する		オモテ、ウラ 中細 9ボ13倍 ウラ 長さ48H
1.9 校正作業の進行に対する指示		
1.9.1 再校の校正刷の提出を指示する		要再校
1.9.2 三校の校正刷の提出を指示する		要三校
1.9.3 念校の校正刷の提出を指示する		要念校
1.9.4 責任校了を指示する		責了 “責任校了”でもよい。
1.9.5 校了を指示する		校了

●表2 修正の指示及び組版指定に用いる併用記号

内容・記号
2.1 文字・記号の種類等を示す併用記号
2.1.1 文字サイズを指示する ボ、Q ポイントや級以外の単位を使用する場合は、その単位で指示する。 【注】1ポイント=0.3514mm (JIS Z 8305 参照) 1Q=0.25mm
2.1.2 書体を指示する 明、ゴチ、アンチ 【許容】明朝体は“ミン”、ゴシック体は“ゴ”あるいは“シ”と指示してもよい。
2.1.3 欧文のプロポーショナルの文字にする 欧文、オウブン
2.1.4 全角の文字にする 全角
2.1.5 半角の文字にする 半角 【許容】“二分”でもよい。
2.1.6 四分角の文字にする 四分
2.1.7 句読点を示す 、 、 、
2.1.8 中点類を示す ・、 、 、
2.1.9 リーダを示す 、 、 、 【許容】 、 、 、 (2点)
2.1.10 ダッシュ(ダージ)を示す 、 (縦組) 、 (横組) 【許容】二分、 、
2.1.11 ハイフンを示す ハイフン
2.1.12 シングル引用符又はダブル引用符を示す 『』、『』、『』、『』
2.1.13 アポストロフィ及びプライム記号を示す '、'
2.1.14 ダブルミニュートを示す ′、′

内容・記号	
2.1.15 斜線を示す 斜線	
2.1.16 紛らわしい文字・記号を指示する マイナス、オンピキ、オシキ カタカナ、ヒラガナ カン、ゼロ、因オー、Q エ、0、0、Q	
2.1.17 複数箇所を同一文字に直す指示をする △ = ■ 【許容】“△”は“○”などを使ってよい。	
2.2 ルビの指示	
2.2.1 モノルビを指示する 	
2.2.2 グループルビを指示する 	
2.2.3 熟語ルビを指示する 	

内容・記号	
2.3 空き量の指示	
2.3.1 ベタ組を指示する ベタ	
2.3.2 全角アキを指示する 全角、 【許容】2.3.3と組み合わせて“全角二分”と指示してもよい。	
2.3.3 二分アキ、三分アキ、四分アキ、二分四分アキなどを指示する 二分、三分、四分、二分四分 【許容】2.1.1の記号を使い、数値で指示してもよい。文字が綴数の場合は“H”を使用する方がよい。	
2.3.4 2倍アキ、3倍アキ、4倍アキなどを指示する 2倍、3倍、4倍 【許容】□□ □□□	
2.3.5 空き量を均等割りにする 均等、均等 ∨∨∨、∧∧∧ 【許容】均等割りにする文字列の長さを指示してもよい。	
2.4 行取り及びそろえの指示	
2.4.1 行取りを指示する 2行ドリ中央、2行ドリ、1行アキ 【許容】2ドリ中央 12アキ	
2.4.2 そろえを指示する 上ソロエ、左ソロエ、下ソロエ、右ソロエ、センター	

循環と共生、そして持続可能な社会へ

ライター●木部晃一

- いま人類にとって一番の問題は、何といっても環境問題をおいて他にはありません。
- 二酸化炭素を代表とする温室効果ガスによる地球温暖化は、人類を含めたすべての生態系を破滅へと導きかねません。人口増と工業化の波は、グローバルの掛け声とともに世界を席巻しています。資本主義経済は、民主主義の掛け声のもと、地域環境という生物特有のニッチさえも破壊しようとしています。

人類はほぼ一万年前、自ら作物を植えるという自然管理の方法を発見しました。そして自然を切り開き、動物さえも交配管理する術を得て、生物本来のニッチから解放されました。さまざまな地域に人類は広がりました。稲を作り、小麦を作り、家畜を育てて生活しました。

山には豊富に木があり、それで家を作り、燃やして暖を取ることもできました。村が町となり、数千人を抱える都市となりました。近くの村や遠くの都市とも



38億年の生命の歴史を経て、今日も新しい命が芽吹く

交易が盛んになり、さまざまな物が流通しましたが、食糧が足りませんし、暖を取るための薪も足りません。

山を切り開き、薪を作り畑を作りました。

た。それでも人口は増え、またまた遠くの山を切り開きました。気が付くと、近くに木がありません。家を建てるため、暖を取るための木をより遠くの土地まで求めて行かなくてはなりません。木を切った山は、たびたび水害をおこし、畑の土を流しました。乾季には川に水も無くなり畑の小麦は枯れ、いつのまにか作物の取れない荒地になりました。

栄えていた都市は、水も食糧も、暖を取る新さえも無くなり、滅びてゆきました。文明の崩壊です。後には人の住めない荒地や砂漠ばかりです。

循環と共生の歴史

話が性急すぎました。人類が採取や狩猟の場所を求めての移動をやめ、農耕での定住を決めてからの数千年は、ある意味では循環と自然との共生の中の生活

※ 山には豊富に木があり、それで家を作り、燃やして暖を取ることもできました。



要再校 2部

21世紀の私たち一人ひとりが考えなければならぬこと

ライター 編集者●木部晃一

- いま人類にとって一番の問題は、何といっても環境問題をおいて他にはありません。二酸化炭素を代表とする温室効果ガスによる地球温暖化は、人類を含めたすべての生態系を破滅へと導きかねません。
- 人口増と工業化の波は、グローバルの掛け声とともに世界を席巻しています。資本主義経済は、民主主義の掛け声のもと、地域環境という生物特有のニッチさえも破壊しようとしています。



38億年の生命の歴史を経て、今日も新しい命が芽吹く

取るための薪も足りません。

山を切り開き、薪を作り畑を作りました。それでも人口は増え、またまた遠くの山を切り開きました。気が付くと近く

循環と共生の時代 歴史

話が性急すぎました。人類が採取や狩猟の場所を求めての移動をやめ、農耕での定住を決めてからの数千年は、ある意味では循環と自然との共生の中の生活があつたと思われま

山があり川があり水があり、その水辺

注：ここに掲載したものは、あくまでも見本です。実際に、これほどの赤字量は編集者の原稿整理とDTP担当者の手抜き作業としか思えません。